

# 韓国からみた日韓貿易の現状と課題

本田 豊

- ・ 本論文の目的
- ・ 分析方法

- ・ 分析結果といくつかの特徴
- ・ 若干の政策提言；まとめにかえて

## ・ 本論文の目的

現在、韓国の対日貿易収支は大幅赤字であり、対日貿易収支赤字を着実に縮小しながら、日韓の貿易協力関係を強化・拡大していくことは、韓国の対外経済政策における重要な課題のひとつである。本論文の目的は、2000年から2003年の貿易統計（税関ベース）HS4桁コード（約1250品目数）の品目別貿易額をもとにした日韓の貿易概況に関する詳細な調査分析結果の特徴を示し、韓国が対日輸出市場を拡大するためにはどうしたらよいかという課題に対して、筆者なりの若干の政策提言を行うことにある。

## ・ 分析方法

韓国から日本への輸出を増やすためには、まず何が有望輸出品目であるかを明らかにする必要がある。そこで、最近の韓国から日本への輸出がどのように推移しているかを詳細な品目分類（約1250品目数）をもとに分析し、その品目の輸出額に持続的な増加傾向があることを確認できれば、その品目に対する日本での需要は広がっており、有望であるとみなして、そのような品目を対日有望輸出品目として抽出する。同様な分析手続きを日本の対韓輸出市場についても行い、対韓有望輸出品目を抽出する。

具体的には、日韓貿易において、2000年から2003年の4年間連続して韓国から日本への輸出額または日本から韓国への輸出額が増加している、あるいは2000年から2001年の輸出額は減少しているが、2001年から2003年では連続的に輸出額が増加している品目をえらび、それらの品目を、韓国の対日輸出市場及び日本の対韓国輸出市場における有望輸出品目であるとみなして抽出する。

次に、「市場の規模」、「市場の発達段階」、「輸出拡大の要因」という3つの分析視角をもとに、両国の有望輸出品目群を格付けして比較分析を行い、韓国の対日輸出市場における問題点や課題を明らかにする。

韓国から日本への輸出を増やすためには、市場規模の大きい品目をできるだけ輸出して輸出額を増やすことが必要となる。市場規模の大きさを見るために、ここでは韓国の対日有望輸出品目すべてについて、過去4年間（あるいは過去3年間）の輸出額の増加分を求める。

この数年間の輸出額増加分が大きいということは、その品目の輸出市場規模が大きいことを意味し、韓国にとっては大変魅力的な大規模市場ということになる。他方、この数年間の輸出額増加分が小さいということは、その品目の輸出市場規模はそれほど大きくはないということの意味している。このように「市場の規模」については、過去数年間の品目別輸出額の増加分に注目することがひとつの方法ある。

「市場の発達段階」については、この数年間の品目別の輸出額増加分率（倍率）に注目する。もし、ある品目の輸出額増加分率（倍率）が高いということは、その品目の輸出市場は成長性が高くまだまだ発展性や将来性もあるとみなされ、逆に当該品目のこの数年間の輸出額増加分率（倍率）が低いということは、その市場はすでに成熟段階あるいは飽和状態にあり、将来の市場規模拡大という視点から見ると、あまり期待できないということになる。このようにある品目の輸出額増加分をその品目の「市場規模」とみなし、輸出額増加分率（倍率）をその品目の「市場発達段階」とし、有望輸出品目について、これら「市場規模」及び「市場発達段階」を軸に類別化することによって、今後の輸出拡大政策の有用な貿易情報を手に入れることができる。

政策的視点からみると、品目別に輸出や輸入などの両国間の貿易取引がどのような要因で起こっているかという貿易情報を把握することも重要である。

貿易はなぜ生まれるのかあるいは貿易を拡大するためにはどうしたら良いかということに関して、貿易理論の立場からは、2つの考え方がある。ひとつはいうまでもなく「比較優位の理論」に代表されるように、貿易は基本的に両国間の相対価格の変化によって発生するというコスト決定型の貿易理論である。現在盛んに行われているFTAに関する議論などはこの理論をベースとしながら展開されている。

他方、コスト決定型の貿易理論を前提にすれば、似通った経済構造を持っている国同士では比較優位に大きな差がなく、貿易は発生しにくいという問題があるとリンダーなどが指摘している。リンダーは、貿易はむしろ似通った経済構造を持つ国同士（例えばヨーロッパ諸国）で活発に行われる傾向があり、貿易は相対価格より、所得水準など需要条件に大きな影響をうけるという需要決定型の貿易理論を展開している。最近では、クルーグマンに代表されるように、消費の多様性などを貿易の原動力として強調する議論もみられる。この場合、貿易は両国の類似する産業内の分業という現象として生まれ、価格競争に依存しなくても、相互の産業内で棲み分けることによって、輸出をふやすことができることになる。

日本と韓国の経済構造を比較した場合、確かに経済発展の違いはあるが、従来いわれているような先進国と途上国というカテゴライズは必ずしも当てはまらず、経済構造の類似性がでてきている。したがって、日韓間の貿易を推進する原動力を分析する場合、相対価格の変化という「コスト決定型」の考え方と、リンダーに代表されるような「需要決定型」の考え方の両方を視野に入れながら、品目ごとにどちらが説得的かを示す情報が必要となる。ここでは、品目ごとに比較優位指数をもとめ、それをひとつの判断材料とする。品目別比較優位指数は次のような式で求められる。

品目別比較優位指数

$$= (\text{品目別輸出額} - \text{品目別輸入額}) \div (\text{品目別輸出額} + \text{品目別輸入額}) \times 100$$

ここで品目別輸出額は、品目別の日本から韓国への輸出額、品目別輸入額は品目別の日本への韓国からの輸入額を示すデータを示す。したがって、品目別比較優位指数が正の大きい値を示せば、その品目は日本に比較優位

があり、同指数が負の値で小さければ小さいほどその品目は韓国に比較優位があることになる。

韓国の対日輸出市場において、過去4年もしくは3年間の間、連続して輸出額が増加した有望輸出品目は169品目であった。また、日本の対韓国輸出市場における有望輸出品目は、297品目であり、日本の有望輸出品目数は、韓国のそれを大幅に上回る状況にあり、このことが、マクロ的に見た場合、韓国の対日貿易収支の大幅赤字に反映される結果となっていることはいうまでもない。抽出した両国の有望輸出品目すべてについて、各品目の「市場の規模」を示す輸出額増加分、「市場の発達段階」を示す輸出増加分（倍率）、「輸出拡大の要因」を示す比較優位指数それぞれの指標について、3段階のランク付けを行う。

韓国の有望輸出品目数は169品目であるため、輸出増加分・輸出額増加分（倍率）については、数値が大きい順番にAランク、Bランクをそれぞれ50品目、Cランクを69品目で機械的にカテゴライズする。また、比較優位指数については、過去4年間の同指数の変化分が小さい順にAランク、Bランクをそれぞれ50品目、Cランクを69品目で機械的にカテゴライズする。一方日本については、有望輸出品目数が297品目であるため、輸出増加分・輸出額増加分（倍率）については、数値が大きい順番にAランク、Bランク及びCランクをそれぞれ100品目、100品目、97品目で機械的にカテゴライズする。また、比較優位指数については、過去4年間の同指数の変化分が大きい順にAランク、Bランクをそれぞれ100品目、Cランクを97品目で機械的にカテゴライズする。具体的には、以下のとおりである。

「市場の規模」を示す輸出額増加分（）内は日本の品目数を示す。）

Aランク；輸出額増加分の上位50（100）品目

Bランク；輸出額増加分の中位50（100）品目

Cランク；輸出額増加分の低位69（97）品目

尚ここで、3つのランクについて、Aランクは当該品目の「市場の規模が大きい」、Bランクは「市場の規模が中程度」、Cランクは、「市場の規模が小さい」と解釈する。

「市場の発達段階」を示す輸出増加分（倍率）（）内は日本の品目数を示す。）

Aランク；輸出増加分（倍率）の上位50（100）品目

Bランク；輸出額増加率(倍率)の中位50(100)品目

Cランク；輸出額増加率(倍率)の低位69(97)品目

ここで3つのランクの解釈として、Aランクは当該品目の市場が「成長段階」、Bランクは「成熟段階」、Cランクは、「飽和段階」と定義する。「成長段階」とは、当該品目の輸出市場規模がまだまだ大きくなる可能性がある、「成熟段階」は当該品目の輸出市場規模が穏やかにしか大きくなると予想される、「飽和段階」とは、当該品目の輸出市場規模が現行以上に拡大することはあまり望めない、とみなすことができる。

#### 比較優位指数（韓国）

Aランク；指数値の変化分が小さいものから順に並べて上位50品目

Bランク；指数値の変化分が小さいものから順に並べて中位50品目

Cランク；指数値の変化分が小さいものから順に並べて低位69品目

#### 比較優位指数（日本）

Aランク；指数値の変化分が大きいものから順に並べて上位100品目

Bランク；指数値の変化分が大きいものから順に並べて中位100品目

Cランク；指数値の変化分が大きいものから順に並べて低位97品目

Aランクは、価格競争力が主要には輸出を決定、Bランクは当該品目のもつ「一定の価格競争力」と当該品目が属する「産業内分業」の両方が輸出を決定、Cランクは、主要には当該品目の属する「産業内分業」が輸出を決定しているとみなすことができる。

「市場規模」、「市場発達段階」、「輸出拡大決定要因」を、(輸出額増分、輸出額倍率、比較優位指数変化分)で類別すると次のような、27の型に区分することができる。

(A、A、A): AAA型	(A、A、B): AAB型	(A、A、C): AAC型
(A、B、A): ABA型	(A、B、B): ABB型	(A、B、C): ABC型
(A、C、A): ACA型	(A、C、B): ACB型	(A、C、C): ACC型
(B、A、A): BAA型	(B、A、B): BAB型	(B、A、C): BAC型
(B、B、A): BBA型	(B、B、B): BBB型	(B、B、C): BBC型
(B、C、A): BCA型	(B、C、B): BCB型	(B、C、C): BCC型
(C、A、A): CAA型	(C、A、B): CAB型	(C、A、C): CAC型
(C、B、A): CBA型	(C、B、B): CBB型	(C、B、C): CBC型
(C、C、A): CCA型	(C、C、B): CCB型	(C、C、C): CCC型

このうち、AAA型に属する輸出品目は、輸出市場の規模が大きいため輸出額も大きく、市場が成長段階にあるため将来性もあり、輸出拡大の要因は価格競争力が強いことであり、両国にとって、このような品目が多数存在することが望ましいのはいうまでもない。また、AAB型やAAC型の輸出品目も望ましいが、特に、AAC型の品目は、価格競争力の強さには依存せず、相手国市場の多様なニーズに適用しながら産業内の分業や棲み分けによって大規模で成長性のある市場を獲得していることを意味しており、もう一つの望ましい姿であるといえることができる。

他方、ACA型、ACB型及びACC型などの品目は、確かに現在は輸出額が大きいが、市場の発達段階をみると、飽和段階にあり、将来の市場の広がりには難しいことになる。したがって、国レベルでこれらの型に属する品目が多い場合は、さらに新しい輸出品目を育成する努力を早急に行う必要があることを示唆している。

CAA型、CAB型及びCAC型などの品目は、確かに現在の市場規模は小さいが、将来の成長性は高いので、これらの品目については将来の戦略的輸出品目にするため、育成政策を強化することが重要となる。

CCA型、CCB型及びCCC型などの品目は、市場規模も小さく将来性もあまり期待できない品目であり、主要には中小零細企業の製品で、両国の個性的な品目などである可能性が大きい。確かにこれらの品目の将来を楽観することはできないが、過去数年間連続的に輸出額が増加している有望輸出品目であることも事実であり、着実に輸出が増えていることに着目する必要がある。これらの品目の輸出が増えることは、両国の中小零細企業で働く人々の雇用や生活を保障するだけでなく、両国の多様な国際交流を促進するきっかけになる可能性を秘めており、両国の連携協力関係を強化するなかで、これらの品目を守り育てていくことが重要である。以上のようなラ

ランク付けによる各型の意味づけを手がかりとしながら、分析結果を明らかにする。

### ・分析結果といくつかの特徴

過去数年間（2000年から2003年の4年間、もしくは2001年から2003年の3年間）連続的に輸出額が増加した品目を有望輸出品目と定義したが、韓国から日本への有望な輸出品目一覧及びそれらのランク付けの結果については、資料1を参照されたい。

表1は、抽出された日韓の有望輸出品目をもとに、「市場規模」、「市場発達段階」及び「輸出拡大決定要因」を、輸出額増分、輸出額倍率、比較優位指数の変化を軸に、類別化してランク付けした結果を集約したものである。

表1の第1列は、両国の有望輸出品目の輸出額増分を大きい順に、A、B、Cの3つに機械的に分類していることを示している。各ランクの品目数について、韓国の

場合は、Aランク50品目、Bランク50品目、Cランク69品目であり、日本の場合はAランク100品目、Bランク100品目、Cランク97品目に分けられている。

第2列は、各品目について、輸出額増分のランクと輸出額増加率（倍率）のランクの組み合わせを示している。組み合わせは、AA、AB、AC、BA、BB、BC、CA、CB、CCの9通りがあり、第3列は、それぞれのランクの組み合わせに属する品目数と構成比を示している。なおここでの構成比は、第1列の3つの増分ランクの品目数を分母としており、例えばAA型の構成比は、表1（1）では $42 \div 100 \times 100 = 42\%$ と計算している。

第4列は、輸出額増分のランク、輸出額増加率（倍率）のランク及び比較優位指数変化分ランクの3つを軸とした組み合わせを示しており、全部で27の組み合わせがある。第5列は、この27の組み合わせに属する品目数を示している。以下では、この表1をもとに、分析結果のいくつかの特徴を示す。

表1（1）日本の対韓国輸出市場

増分ランク	増分ランク 倍率ランク	品目数 (構成比%)	増分ランク 倍率ランク 比較優位ランク	品目数
A (100品目)	AA	42 (42%)	AAA	21
			AAB	12
			AAC	9
	AB	43 (43%)	ABA	13
			ABB	19
			ABC	11
	AC	15 (15%)	ACA	3
			ACB	5
			ACC	7
B (100品目)	BA	33 (33%)	BAA	13
			BAB	15
			BAC	5
	BB	41 (41%)	BBA	20
			BBB	11
			BBC	10
	BC	26 (26%)	BCA	4
			BCB	8
			BCC	14
C (97品目)	CA	25 (25.8%)	CAA	14
			CAB	6
			CAC	5
	CB	16 (16.5%)	CBA	5
			CBB	7
			CBC	4
	CC	56 (57.7%)	CCA	7
			CCB	17
			CCC	32
合計		297		297

表1（2）韓国の対日輸出市場

増分ランク	増分ランク 倍率ランク	品目数 (構成比%)	増分ランク 倍率ランク 比較優位ランク	品目数
A (50品目)	AA	14 (28%)	AAA	9
			AAB	3
			AAC	2
	AB	19 (38%)	ABA	7
			ABB	8
			ABC	4
	AC	17 (34%)	ACA	3
			ACB	4
			ACC	10
B (50品目)	BA	13 (26%)	BAA	7
			BAB	3
			BAC	3
	BB	19 (38%)	BBA	5
			BBB	5
			BBC	9
	BC	18 (36%)	BCA	1
			BCB	9
			BCC	8
C (69品目)	CA	23 (33.33%)	CAA	9
			CAB	8
			CAC	6
	CB	12 (17.39%)	CBA	5
			CBB	3
			CBC	4
	CC	34 (49.28%)	CCA	4
			CCB	7
			CCC	23
合計		169		169

日本の対韓国輸出額増分が大きい上位（Aランク）100品目について、倍率ランクを加味すると、AAランクが42品目、ABランクが43品目、ACランク15品目であり、増分Aランクの100品目に占める構成比率は、それぞれ42%、43%、15%となっている。他方、韓国の対日本輸出額増分が大きい上位（Aランク）50品目について、倍率ランクを勘案してみると、AAランクが14品目、ABランクが19品目、ACランク17品目であり、増分におけるAランク50品目に占める構成比率は、それぞれ28%、38%、34%となっている。

日本と韓国を比較すると、日本ではAAランクの構成比率が42%と高く、ACランクの構成比率が15%と低くなっているが、逆に韓国の場合、AAランクの構成比率が28%、ACランクの構成比率が34%となっており、日本と比較すると、ACランクの構成比率の高さが際立っている。日本の場合、輸出市場規模の大きい品目で、市場の発達段階もまだ成長段階であり、今後も大幅な輸出拡大が見込まれる品目は多いが、韓国の場合、現在輸出市場規模の大きい品目でも、市場の発達段階が成長段階にあるものは相対的に少なく、むしろ市場が成熟あるいは飽和状態にある品目が多数にのぼり、今後とも当該品目の大幅な輸出拡大が見込まれるかどうかは予断を許さない状況にある。

日本のAAランクに属する42品目について、比較優位変化分ランキングを考慮すると、価格競争力が高いAAAランクが21品目、一定の価格競争力もあるが産業内分業も行われていると考えられるAABランクが12品目、価格競争力は低い産業内分業の推進で市場の棲み分けが行われていると思われるAACランクが9品目という結果になっている。

他方、韓国のAAランクに属する14品目について、比較優位変化分ランキングを考慮すると、価格競争力が高いAAAランクが9品目にたいして、一定の価格競争力もあるが産業内分業も行われていると考えられるAABランクが3品目、価格競争力は低い産業内分業の推進で市場の棲み分けが行われていると思われるAACランクが2品目という結果である。

韓国における市場の規模も大きく市場の発達段階も成長段階にあるAAランクの品目の多くは、日本に対して価格競争力が高いということが輸出拡大の原因となっている。これに対して、日本の場合も確かに、価格競争力の高さが輸出拡大の原因になっている品目も多いが、他

方価格競争力がなくても産業内分業によって輸出を増やしている品目も多いなど、輸出拡大の原因が多様化しているところに特徴がみられる。日本の場合、韓国の家計や企業の需要状況について韓国市場のマーケティング戦略を重視したことがこのような成果を生み出したひとつの要因ではないかと推察される。このことは、韓国においても日本の家計や企業の需要状況をよく調査分析し、価格競争に巻き込まれず日本人の趣向にあった製品開発をおこない販売するなど、産業内分業の推進が重要であるということを教えている。

現在市場の規模は小さいが今後急速な成長があると見込まれるCAランクの品目を見てみると、日本の場合25品目で、増分についてのCランク97品目の25.8%を構成しているのに対して、韓国の場合、増分についてのCランク69品目のうち23品目で、構成比率は33.3%となっており、将来性のある品目が多数あることを示している。今後はこれらの品目をどのように育てていくかが産業政策の上で、重要なポイントである。

増分ランクと倍率ランクがともに低いCCランクの品目をみても、日本の場合CCランク56品目のうち、CCCランクは32品目で構成比率が57%、韓国の場合CCランク34品目のうち、CCCランクは23品目で構成比率が68%になっている。このランクにある品目は市場の規模が小さく将来の成長性があまり見込めない品目であるが、着実な輸出額の増加傾向をしめしていることも事実である。特に着目すべきは、これらの品目は価格競争に巻き込まれることなく相互の市場で同種の相手品目と共存関係をもち市場において棲み分けが行われている可能性が高いということである。これらの品目を取り扱っているのは両国とも中小零細企業であり、両国の中小企業の育成という視点から、相互の連携協力関係を構築していくことが重要である。

## ・若干の政策提言；まとめにかえて

本論文では、2000年から2003年の貿易統計（税関ベース）HS4桁コード（約1250品目数）の品目別貿易額をもとにした日韓の貿易概況に関する詳細な調査分析結果から、韓国からみた対日貿易に関する問題点や特徴を明らかにした。今回の調査分析結果をもとに、韓国が対日輸出市場を拡大するために必要な政策の方向性について、筆者なりの政策提言を行い、まとめにかえることと

したい。

韓国が日本の輸出市場において、輸出競争力を持つ品目をできるだけたくさん生み出すことが何よりも重要である。その際次のような点に留意した政策の方向性を具体化することが望ましい。

\* 韓国は競争力を単に価格競争力に限定するのではなく、日本市場でのマーケティング強化を徹底することなどにより、非価格競争力のひとつである産業内分業を推進する必要がある。

\* 韓国には将来の有望輸出品目が一定数存在しており、品目別に輸出拡大の戦略をきめ細かに確定した政策を策定し実施することが重要である。

\* 韓国と日本の両国には中小零細企業が主体となる有望輸出品目が多数存在するが、その将来は楽観できない。これらの輸出品目については、両国とも競争より共存を優先して協力連携関係を強化することが重要である。

**資料1 韓国の対日有望輸出品目一覧表**

**AAA型**

- 85.06 一次電池
- 90.29 積算回転計、生産量計その他これらに類する物品
- 96.08 ボールペンなど
- 84.26 デリック、クレーンなど
- 85.02 発電機及びロータリーコンバータ
- 29.16 カルボキシアミド官能化合物及び炭酸のアミド官能化合物
- 85.29 第85.25項から第85.28項までの機器に使用する部分品
- 76.01 アルミニウムの塊
- 48.10 紙及び板紙

**AAB型**

- 72.04 鉄鋼のくず及び鉄鋼の再溶解用のインゴット
- 85.37 電気制御用又は配電用の盤その他の物品
- 33.04 ひげそり前用、ひげそり用又はひげそり後用の調製品など

**AAC型**

- 85.39 フィラメント電球及び放電管
- 84.21 遠心分離機など

**ABA型**

- 85.31 電気式の音響信号用又は可視信号用の機器

- 28.03 その他の無機酸及び無機非金属酸化物
- 68.06 スラグウール、ロックウールその他これらに類する鉱物性ウールなど
- 73.07 鉄鋼製の管用継手
- 40.16 その他の動物をなめした皮
- 85.24 レコード、テープその他の記録用の媒体
- 73.11 圧縮ガス用又は液化ガス用の鉄鋼製の容器

**ABB型**

- 48.11 紙、板紙、セルロースウォッディング及びセルロース繊維のウェブ
- 84.83 ギヤボックスその他の変速機
- 85.34 印刷回路
- 84.81 コック、弁その他これらに類する物品
- 84.09 第84.07項又は第84.08項のエンジン専ら又は主として使用する部分品
- 84.82 玉軸受け及びころ軸受け
- 87.08 部分品及び附属品
- 59.02 タイヤコードファブリック

**ABC型**

- 94.04 寝具その他これに類する物品
- 85.28 テレビジョン受像機器など
- 85.12 電気式の照明用又は信号用の機器
- 30.04 肥料成分のうち2以上を含有する肥料

**ACA型**

- 85.21 ビデオの記録用又は再生用の機器
- 85.23 録音その他これに類する記録用の媒体
- 73.12 鉄鋼製のより線その他これらに類する物品

**ACB型**

- 29.33 糖類など
- 83.02 非金属製の帽子掛けその他これに類する物品
- 72.17 鉄又は非合金鋼の線
- 39.17 プラスチック製の板、その他のへん平な形状の物品

**ACC型**

- 22.08 塩、純塩化ナトリウム及び海水
- 38.18 液圧ブレーキ液その他の液圧伝動用の調整液
- 21.06 その他の発酵酒など
- 84.13 液体ポンプ及び液体エレベーター
- 20.05 果実、ナットその他植物の食用の部分
- 18.06 チョコレート
- 85.42 集積回路及び超小型組立
- 03.04 魚のフィレその他の魚肉

39.19	プラスチック製の建築用材	07.12	乾燥野菜
40.11	その他の製品（加硫したゴム）	33.07	せっけん、有機界面活性剤及びその調製品など
<b>BAA 型</b>		19.05	調製し又は保存に適する処理をしたその他の野菜
84.49	フェルト又は不織布の製造用又は仕上げ用の機械	<b>BCA 型</b>	
20.09	調製食料品	70.19	ガラス繊維及びその製品
48.05	その他の紙及び板紙	<b>BCB 型</b>	
83.10	卑金属製のサインプレートその他これらに類するプレート	73.15	鉄鋼製の鎖及びその部分品
70.07	安全ガラス	84.23	重量測定機器など
29.31	複素環式化合物	34.02	調整潤滑材など
84.84	ガasketその他これに類するジョイント	94.01	腰掛け及びその部分品
<b>BAB 型</b>		31.05	調整顔料、調整乳白剤、調整絵の具など
70.11	ガラス製のバルブ、チューブその他これらに類する物品	28.11	マンガンの酸化物
87.01	トラクター	85.19	レコードデッキなど
84.08	ピストン式圧縮点火内燃機関	56.03	不織布
<b>BAC 型</b>		39.25	配合ゴム
85.45	炭素電極、炭素ブラシ、その他の製品	<b>BCC 型</b>	
90.10	写真用又は映画用の材料の現象、焼付けその他の処理に使用する機器	34.03	人造ろう及び調整ろう
84.57	金属加工用のマシニングセンターなど	84.14	気体ポンプ、真空ポンプ、気体圧縮機など
<b>BBA 型</b>		95.03	その他のがん具
69.02	耐火れんが、耐火ブロック、耐火タイルその他これらに類する建設用陶磁製耐火製品	85.36	電気経路の開閉用、保護用又は接続用の機器
85.47	電気機器の電気絶縁用物品	71.17	身辺用模造細貨類
40.08	管及びホース	49.11	その他の印刷物
84.25	ブリータックルなど	48.23	その他の紙、板紙
29.24	その他のオルガノインオルガニック化合物	59.06	ゴム加工をした紡織用繊維の織物類
<b>BBB 型</b>		<b>CAA 型</b>	
28.44	希土類金属など	58.02	テリ - タオル地その他のテリ - 織物
84.12	その他の原動機	84.34	搾乳機及び酪農機械
85.14	工業用又は理化学用の電気炉	44.17	木製の工具並びに工具
34.01	有機界面活性剤など	11.09	小麦グルテン
84.67	手持工具	73.24	衛生用品及びその部分品
<b>BBC 型</b>		86.06	鉄道用又は軌道用の貨車
39.06	プラスチック製の管及びホースなど	32.09	香水類及びオーデコロン類
72.28	その他の合金鋼のその他の棒	29.40	医薬品（治療用・予防用で、投与量にしてないもの）
90.27	物理分析用又は化学分析用の機器	38.02	調整したゴム加硫促進剤など
40.09	ゴム製の空気タイヤ	<b>CAB 型</b>	
08.12	一時的な保存に適する処理をした果実及びナット	38.19	診断用又は理化学用の試薬など
55.05	人造繊維のくず	82.04	スパナー及びレンチ
		28.46	環式アルコール並びにそのハロゲン化誘導体など
		90.20	その他の呼吸用機器およびガスマスク

25.01	硫黄	68.09	プラスター又はプラスターをもととした材料から成る製品
25.03	石英	84.48	機械の補助機械
28.41	放射性の元素及び同位元素	55.03	合成繊維の短繊維
38.22	アクリル重合体		
<b>CAC 型</b>		<b>CCC 型</b>	
68.13	ブレーキ用などの用途に供する摩擦材料及びその製品	48.21	紙製又は板紙製のラベル
29.06	不飽和非環式モノカルボン酸及など	48.17	紙製又は板紙製の封筒など
28.20	亜硝酸塩及び硝酸塩	49.10	カレンダー
34.07	爆薬	13.02	植物性の液汁及びエキスなど
28.34	オキソ金属酸塩及びペルオキソ金属酸塩	90.26	液体又は気体の流量、液位圧力その他の変量の測定用又は検査用の機器
36.02	活性炭及び活性化した天然の鉱物性生産品など	93.05	第93.01項から第93.04項までの物品の部分品及び附属品
<b>CBA 型</b>		32.07	ペイント又はワニス（水性媒体に分散・溶解）
19.04	パン、ペーストリー、ケーキ、ビスケットその他のベーカリー製品	73.04	鉄鋼製の管及び中空の形材
06.02	その他の生きている植物	87.07	車体
84.51	洗浄用等の機械	49.02	新聞、雑誌その他の定期刊行物
40.05	板、シート、ストリップ、棒及び形材	81.08	チタン及びその製品
55.16	再生繊維又は半合成繊維の短繊維の織物	30.03	医薬品（治療用・予防用で、投与量にしたもの）
<b>CBB 型</b>		22.06	エチルアルコール
71.01	天然又は養殖の真珠など	19.02	穀物又は穀物産品を膨脹させて又はいつて得た調製食料品
69.11	陶磁製の食卓用品、台所用品その他の家庭用品及び化粧品	53.09	亜麻織物
84.16	炉用バーナー及びメカニカルストーカー	20.08	果実又は野菜のジュース
<b>CBC 型</b>		69.08	陶磁製の舗装用品及び炉用又は壁用のタイル
72.20	ステンレス鋼のフラットロール製品	82.14	その他の刃物
70.01	ガラスのくず及び塊	38.12	元素を電子工業用にドーブ処理したもの
73.22	セントラルヒーティング用のラジエーター	84.03	セントラルヒーティング用ボイラー
34.04	モデリングペーストなど	28.02	炭素
<b>CCA 型</b>		17.04	砂糖菓子
25.06	昇華硫黄、沈降硫黄及びコロイド硫黄	94.02	医療用又は獣医用の備付品
43.02	なめし又は仕上げた毛皮		
33.03	美容用、メーキャップ用又は皮膚の手入れ用の調整剤	<b>参考文献</b>	
59.01	書籍装丁用等の紡織用繊維の織物類	〔1〕伊藤元重、『ゼミナール国際経済入門』、日本経済新聞社、1989年。	
<b>CCB 型</b>		〔2〕田中拓男、『国際貿易と直接投資』、有斐閣、1995年。	
68.05	粉状又は粒状の天然又は人造の研磨材料を紡織用繊維など	〔3〕日本関税協会、『輸出統計表2004』、2003年。	
90.06	写真機	〔4〕日本関税協会、『実行関税率表2004』、2003年。	
82.15	スプーンその他これらに類する台所用具及び食卓用具	〔5〕Linder, S.B., An Essay on Trade and Transformation, Almqvist & Wiksell, 1961.	
16.03	肉、魚又は甲殻類のエキス及びジュース	<b>付記</b> 本論文は、2005年5月27日韓国大邱大学で開催された「東アジア経済国際学術大会」での報告内容を修正加筆したものである。	